

み・う・し NEXT

北区GIGAスクール構想通信



— 教育DXで広がる子どもたちの学び —

令和8年
6月号

<https://www.city.kita.lg.jp/children-edu/schools/1018650/1018654.html>

東京都北区教育委員会教育振興部 教育DX推進課 (03-3908-9273)

教育DXリーダー検証授業 ①

「AIを信じる前に、確かめる力」を育てる

北区立十条富士見中学校 長澤 研先生の実践

「AIの答えは正しいの？」——。そんな問いに向き合う授業が、中学校1年生の技術・家庭科(技術分野)で行われました。今年度から新たにスタートした「教育DXリーダー」による第1回目の「きたコン」活用検証授業です。

今回の授業では、木材の切断方法について学ぶ中で、生成AIを活用しました。生徒たちは「みんなで生成AIコース」を使い、木材を安全に切断する手順をAIに質問。よりよい答えを引き出すために指示文(プロンプト)を工夫しながら、手順書作りに挑戦しました。



しかし、この授業のねらいは単にAIを使うことではありません。生成AIの特徴や限界を理解し、出力された情報が本当に正しいのかを確かめる力を育てることも大切な学習です。そこで生徒たちは、AIが示した内容を教科書と照らし合わせながら検証しました。

すると、数名の生徒が生成AIの回答の中に誤りが含まれていることを発見しました。「AIの説明で、のこぎりの縦引きと横引きの使い方が教科書と逆になっていました。」と答えていました。生成AIは大量の情報をもとに文章を作りますが、時には事実と異なる内容をもっともらしく答えてしまうことがあります。こうした特徴は「ハルシネーション(AIの誤情報)」と呼ばれています。「AIは便利だけど、必ず正しいとは限らない」ということを、生徒たちは体験を通して実感できた瞬間でした。

授業中はどの生徒も熱心で、友達同士でAIの回答を見比べたり、「もっと詳しく聞くにはどう質問したらいいだろう」と相談したりする姿も見られました。

AIを使うことが目的ではなく、AIを活用しながら考え、話し合い、判断する学びが自然に生まれていました。



生成AIが出力した手順書をグループで伝え合い、教科書と比べて違いを確認しています。

授業後、生徒からは、

- 😊「これからAIに任せることが増えるので、AIも時には間違ふことがあることを学べてよかった。」
- 😊「実際に生成AIを使って楽しく学べた。」
- 😊「AIの答えを自分でもよく考えることが大切だと思いました。」

といった感想が聞かれました。

生成AIを学校で活用する際には、「生成AIを理解すること」と「生成AIを活用すること」の両方が大切です。今回の授業は、木材加工の学習を進めながら生成AIの特性も学ぶ、まさにその両方を実現した実践でした。

* * * * *

生成AIはこれからの社会で身近な存在になります。だからこそ、AIの答えをそのまま受け入れるのではなく、自分で確かめ、考え、判断する力が必要です。北区では今後も「きたコン」を活用しながら、子どもたちがAIと上手に付き合う力を育ててまいります。

北区GIGAスクール構想通信『みらいNEXT』は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様に向けて、教育DX推進課が毎月発行いたします(8月以外)。

きたちゃん こん本 きた子 by Toshi & Chappy



なぜ生成AIは間違ふことがあるの?

生成AIは、人のように「考えて答え」を作っているのではなく、たくさんの情報からコンピュータが「次に続きそうな言葉」を予測して文章を作っています。そのため、もっともらしく見えても間違った内容を答えることがあります。

だからこそ、AIの答えをそのまま信じるのではなく、「本当かな?」と確かめる力が大切です。ご家庭でも、お子さんと一緒に情報を確かめる習慣を育てていきましょう。